辞書における動詞と名詞の区分と提示すべき用例について[1]

三宅　登之

1. はじめに

本稿は，中国語の動詞と名詞の区分と辞書における用例提示の問題について論じる。三宅 2005a では様々な辞書における動詞と名詞の品詞表示そのものの分布と兼類の理論的解釈を試みたが，本稿では特に，動詞と名詞にどのような用例を掲載するのが適切かという問題について検討する。本稿はいわば山崎 2005 のコンセプトを活用しつつ，三宅 2005a を発展させたものとして位置づけられる。

2. 調査の概要

2.1. 調査対象の語

調査対象の語として，主に動詞と名詞の兼類として扱われることの多い，三宅 2005a で調査した 100 語の中から，同型兼類語[2]を中心に用例の豊富な語をいくつか取り上げる。同型兼類語は意味に違いがないからこそ，用例でその品詞の違いの根拠を明示する必要があるからである。また，これら以外の語についても，辞書記述上問題となるケースがあれば随時取り上げる。

2.2. 調査対象の辞書

まず現在日本で市販されている中国語の辞書において，上記の調査対象の語がどのように記述されているかを調査した。具体的には，最近およそ 10 年以内に日本で出版された辞書のうち，以下の辞書 3 種における記述を調査した。

(1) 表 1　調査対象の辞書

書名	編者	出版社	発行年	略号
講談社中日辞典 第二版	相原茂	講談社	2002	講
白水社中国語辞典	伊地智善継	白水社	2002	白
東方中国語辞典	相原茂・荒川清秀・大川完三郎	東方書店	2004	東

[1] 本稿は 2007 年 3 月 17 日に明治大学で開催された日本中国語学会関東支部拡大例会ワークショップ『中国語辞書―これまでとこれから』において，「動詞の用例と名詞の用例――辞書での品詞表示と提示すべき用例の関係について 」と題して行った研究発表をまとめたものである。

[2] 「同型兼類語」については三宅 2005a, 62 を参照。

他の主要な辞書のうち，『中日辞典第２版』（小学館／北京・商務印書館共同編集，小学館，2003 年）は，動詞と名詞の品詞表示がされていないので，対象からはずした。また，『クラウン中日辞典』（松岡榮志・樋口靖・白井啓介・代田智明編，三省堂，2001 年）は，

(2)　【研究】yánjiū①<名><動>研究（する）[3]

のように，掲載されている用例が名詞の用例なのか動詞の用例なのかが区分できない場合があるので，やはり調査対象からはずした。さらに，『デイリーコンサイス中日辞典』（杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘編，三省堂，1998 年），『はじめての中国語学習辞典』（相原茂編，朝日出版社，2002 年），『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』（武信彰・山田眞一・古川裕・森宏子編，小学館，2006 年）などもそれぞれに特色のある辞書ではあるが，辞書の規模が異なり例文数に限りがあるので，やはり調査対象からはずすこととした。

3. 動詞と名詞の文法的特徴

3.1.　動詞と名詞の文法的特徴

さて，動詞と名詞の用例記述を考えるにあたって，まず動詞と名詞それぞれの文法的な特徴は何かについて確認しておきたい。なぜならば，朱德熙 1985a, 11 が“划分词类的根据只能是词的语法功能”（品詞を分類する際の根拠は語の文法機能でしかありえない）と述べるように，中国語の品詞分類にあたっては語の文法的な特徴が分類する際の基準となり，またそれが辞書で提示される用例にも反映されているべきだからである。

まず動詞の文法的特徴には，以下のようなものがある。[4]

(3)　動詞の文法的特徴

①述語になる

②目的語・補語を伴う

③否定副詞“不”も含め，連用修飾語の修飾を受ける

④“了、着、过”　を伴う

⑤助動詞の修飾を受ける

⑥“把、被”の述語を構成する

⑦重ね形になる

---

[3] このような提示法に対する批判は李尔钢 2006 に詳しい。

[4]徐枢、谭景春 2006，朱德熙 1982 等を参考にした。

辞書の動詞の用例には(3)のような特徴を体現した用例を積極的に採用することが望ましいと考えられる。次に，名詞の文法的特徴として考えられるのは以下のような点である。

(4)名詞の文法的特徴

①主語・目的語になる

②連体修飾語になる

③直接他の名詞の修飾を受け，また直接他の名詞を修飾する

④数量詞の修飾を受ける

⑤副詞の修飾を受けない

ところが，本稿で問題にするような動詞と名詞の境界線上に位置するような語のうち，ある特定の語が名詞であると判定するためには，(4)がその基準としてあまり役に立たないことがわかる。なぜなら，(4)の①は動詞にも共通の特徴であるし（後述），②と③については「名動詞」（後述）はこの特徴を有している。⑤については，「～しない」という特徴は辞書の用例としては提示できない。④については，明らかな名量詞の場合は基準として利用できるが，動量詞の場合は，動作行為の回数を数えるというその性質から言って，区分が明確でなくなる場合も少なくない。

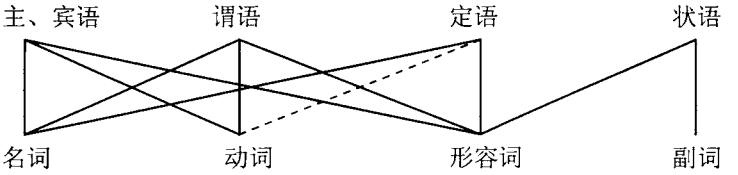
3.2. 文成分との関係

上で，(4)の名詞の特徴のうち「主語・目的語になる」が動詞にも共通の特徴であると述べたが，(3)で挙げた動詞の特徴の中には特にそれを挙げなかった。逆に動詞の特徴の中には①「述語になる」という項目が挙げられている。このような品詞（動詞と名詞）と文成分との関係についてここで確認しておこう。

(5)は陆俭明 1993, 80 の品詞と文成分の対応の図である。[5]

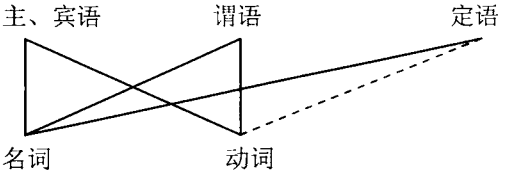
[5]これは実際には朱德熙 1985a, 5 に修正を加えたものである。

(5)図１　品詞と文成分の対応図（陆俭明 1993）



本稿では動詞と名詞の区分の議論をしているので，(5)から本稿の議論に直接関係のない部分を取り去ってしまうと，この図は(6)のようになる。

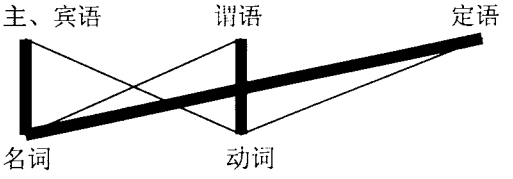
(6)図２　本稿に関連する品詞と文成分の対応図



この図から表面的に読み取れるのは，動詞と名詞の両者とも，主語・目的語にも，述語にも，連体修飾語にも生起し得るので，文成分との関係から言えば，動詞と名詞はまったく区別ができないのではないかということである。

しかし実際の様相を見てみると，そうではない。(6)は中国語の使用状況の実態を反映させた形としては，(7)のように書き表すことが可能である。

(7)図３　使用状況を反映させた品詞と文成分の対応図



(7)の太い線は，その部分の品詞と文成分との対応が，いわば制限のない典型的な対応であることを示し，細い線は，対応関係がないわけではないが，実際には様々な制限がかかった，非典型的な対応関係であるということを示している。まず，名詞と述語の対応部分について見ると，名詞が述語になるというのは「名詞述語文」のケースであり，周知のように様々な条件

がかかる。[6]動詞と連体修飾語の対応も自由ではなく，連体修飾語になれる動詞は名動詞に限られる。[7]また，動詞と主語・目的語との対応のうち，動詞が主語に立つケースを考えてみると，確かに

(8) 他的笑是有原因的。（彼の笑いには原因がある。）（朱德熙 1985a, 16）

のように，動詞が主語の位置に立てる例も従来取り上げられてはいるが，

(9) *孩子的吃使我高兴。（朱德熙著，中川正之・木村英樹編訳 1986 訳注 17）

のように成立しない例もあり，動詞なら何でも自由に主語の位置に生起できるわけではない。また，動詞は述語の位置と違い主語の位置では，一部の副詞の修飾を受けない，アスペクト助詞を伴えない，重ね形にできないなど，述語の位置にある場合は可能な文法的振る舞いが主語の位置に立つと不可能になるという様々な制限が生じることにも注意すべきである。（沈家煊 1999）[8]

さらに，莫彭龄、单青 1985 の動詞と名詞の各文成分における頻度調査の結果を(10)に示す。

(10)表２　動詞と名詞の各文成分における頻度調査結果（莫彭龄、单青 1985）

	主语	谓语	宾语	定语	状语	补语
名词	21.2	0.18	49.04	20.9	6.5	0
动词	0.91	76.7	2.86	6.52	7.15	5.88
形容词	1.72	26.2	6.03	42.0	19.1	4.8

このような実際の言語の使用状況を観察しても，名詞は主語・目的語・連体修飾語に，一方動詞は述語になっているものが多く，(7)の太い線の部分がその品詞の主要に生起する文成分との対応，細い線の部分が主要でない文成分との対応であるということが言える。このことをふまえ，動詞についても名詞についても主要用法と主要でない用法を区別し，用例にはできるだけ主要用法を掲載することが求められるものと考えられる。

---

[6] “名词在一定条件下可以做谓语”（名詞は一定の条件の下では述語になることができる）（朱德熙 1985a, 5，下線は筆者）の下線部分が，名詞が述語に決して自由に生起しうるわけではないことを表している。

[7] “动词与定语之间的虚线表示有部分动词也能直接作定语，这主要是名动词”（動詞と連体修飾語の間の点線は一部分の動詞が直接連体修飾語になることもできることを表しており，これは主に名動詞の場合である）（陆俭明 1993, 80）

[8] このような現象を，主語に位置する動詞が名詞的性質を備えている根拠とする考えに対する反論は，郭锐 2002 に見られる。

4. 動詞・名詞の分類と用例の割り振り

4.1. 基本的コンセプト

本章では，辞書編纂の上で動詞と名詞をどのように振り分け，それぞれにどのような用例を付していくべきかを考察する。まず動詞と名詞の分類に際しては，朱德熙 1985a の“名动词”（名動詞）のコンセプトを基本的に採用する。名詞と動詞の同型兼類語については，兼類として動詞の表示と名詞の表示のいずれも行うのではなく，分類上はあくまでも動詞の方に組み込み，辞書でも動詞と表示する。

これはどういうことかと言うと，例えば動詞と名詞の兼類でよく例として挙がる“调查”を例に考えると，理論的には動詞と名詞の兼類とすることのほかには

(11)

a. “调查”は本質的には「調査する」という動詞である。その中に「調査」という名詞的な用法もある。

b. “调查”は本質的には「調査」という名詞である。その中に「調査する」という動詞的な用法もある。

の２つの分類方法が可能であるが，本稿はこのうち a. を採用するということである。これは，名詞に組み込んでしまっては名詞の分類基準が複雑になってしまう，すなわち「副詞の修飾を受けない」という一項目を名詞の分類基準から切り捨てなければならない（中川・木村編訳 1986, 67-69）という分類上の根拠にも基づいているし，またそもそも名動詞は行為が指示されているのであって，物体が叙述されているのではない（三宅 2005a, 69-71）という意味論的な根拠にも基づいている。

4.2. 分類と用例の割り振りの手順

本稿では，用例はその品詞の文法機能を提示できているべきであるという立場に立つ（郭锐 1999，程荣 1999）。そこで作業手順としては，まず最初に品詞を動詞と表示し，動詞としての典型的な用例を付す。その次に「名詞的な使われ方」の用例が必要なら掲載し，それが動詞としての典型例ではなく名詞的な用例だと明示するマーク付けをする。

次章では具体的な例を用いて動詞の用例の割り振りについて述べる。

5. 実際の用例の問題点と新基準による提案

5.1. 動詞の例として使える用例のパターン

まず，(3)の動詞の文法的特徴をそのまま提示しているような用例を中心に，以下のような動詞の例として使える用例を，動詞の項目の中の最初にまず掲載する。これらの用例は，「名詞的な使われ方」のマーキングをせずに，純粋な動詞の用例として取り扱うことになる。以下では調査対象とした辞書から，このようなパターンに該当する用例を引用する。[9]

(12)你在哪儿工作? /あなたはどこにお勤めですか.（講）
(13)给我安排一个房间吧/私に一部屋用意してください.（講）
(14)事情还没有调查清楚/事はまだはっきり調べがついていない.（講）
(15)一切由你们安排，我们没有意见/一切あなたがたの手配にお任せします，我々には異存はありません.（白）
(16)他们表演了中国人民喜爱的歌曲/彼らは中国の人々が好む歌を歌った.（白）
(17)这种方法仍然刺激着生产的发展/この方法は依然として生産の発展を刺激している.（白）
(18)他在上海工作过/彼は上海で働いたことがある（東）
(19)一种事物不能变化为另一种不同的事物/事物は異なる別の事物に変わることはできない.（白）
(20)应该把问题认真分析一下/問題点を一度真剣に分析してみるべきだ.（白）
(21)他们反映的情况，你要分析分析/君は彼らが報告した状況をちょっと分析してみるべきだ.（東）

(12)では“工作”は主語“你”に対する述語“在哪儿工作”の中の述語動詞として用いられている。これは典型的な動詞の例として扱うことができる。(13)の“安排”は“一个房间”という目的語を伴っているし，(14)の“调查”は“清楚”という結果補語を伴っている。これらは名詞にはない動詞特有の機能である。(15)では“安排”は“由你们”という介詞フレーズの連用修飾を受けている。よってこれも典型的な動詞の例として扱う。(16)の“表演”は“了”，(17)の“刺激”は“着”，(18)の“工作”は“过”と，それぞれアスペクト助詞を伴っている。これらも典型的な動詞の例である。(19)では助動詞“能”が目的語として伴っている“变化”は典型的な動詞である。(20)では“分析”が“把”構文の述語動詞となっており，これも典型

[9] 下線部分がその用例で扱われる動詞であることを表す。用例の最後の（　）は出典を示す。実際の辞書では，記述される語は用例中では“～”で示されることが多いが，ここでは単独の用例の抜粋なので用例中でも動詞を記載した。

的な動詞と見なす。「重ね形」といえば動詞には限らないが，(21)は明らかに動詞の「重ね形」の用例であることがわかる。

5.2. 「動詞の名詞的な使われ方」のマークをするパターン

次に，5.1.で述べたような典型的な動詞の用例として扱うのではなく，名詞的な用法として記述すべき用例のパターンを見てみる。本稿では以下に，動詞の名詞的用法と認定すべき４つの文法的基準を提案する。

5.2.1. 準述賓動詞の目的語になっている場合

まず第１番目の基準は，“进行”“加以”“做”などの準述賓動詞[10]の目的語になっているという基準である。以下のような例がこれに該当する。

(22)我们作了全面的分析/我々は全面的に分析をした．(白)
(23)为国家多做贡献/ 国のために多く貢献する．(東)
(24)进行分析/ 分析を行なう．(白)
(25)加以分析/分析を加える．(白)
(26)按情节轻重予以处分/情状の軽重によって処分する．(東)

“分析”が(22)では“作”の，(24)では“进行”の，また(25)では“加以”のそれぞれ目的語になっている。(23)では“贡献”が“做”の目的語になっており，(26)では“处分”が“予以”の目的語になっている。刁晏斌 2004, 54 は次のように，これらの用法に見られる準述賓動詞[11]は動作行為を指示する働きを持つマーカーであり，その目的語になっている２音節の動詞は動詞の本来持つ働きを失い動作行為を指示されたものになっているという指摘をしている。

(27)一个动词，做了虚义动词的宾语后，就隐去了动词的绝大部分功能（这些功能都与动词的陈述性相关），变成一个指称性成分，而此时的虚义动词就起了指称标记的作用。(一つの動詞が虚義動詞の目的語になると，動詞の大部分の機能を失い（これらの機能はすべて動詞の陳述性と関連がある），指示性成分と変わる。この時の虚義動詞は指示のマーカーの働きをしている。)

---

[10]先行研究によって「虚義動詞」「形式動詞」など様々な呼び方をされているものである。本稿は朱德熙 1982, 60 に従って「準述賓動詞」(“准谓宾动词”) と呼ぶ。
[11]刁晏斌 2004 の用語では「虚義動詞」(“虚义动词”)。

本稿もこの考えに従い，これらの準述賓動詞の目的語になっている２音節動詞については，動詞の本来の陳述の機能を失った，非典型的な動詞の例として扱うことにし，「準述賓動詞の目的語になる」という文法的フレームを，動詞の名詞的用法の例として扱う第１の基準とする。

この基準を立てることにより，現行の辞書の間に見られるどのような不一致を解消することが可能になるか，いくつか実例を見てみよう。[12]

(28)安排

（白）［動］（人員・労働力・仕事・計画・時間・日程などを手順よく）適当に処理する，配置する，あんばいする，段取りをする，手配する，手はずを整える，割りふりする．¶他们作了具体的～。/彼らは具体的段取りをした。

（東）[名]段取り，案配，手はず．¶作出具体～/具体的な段取りをする

(29)准备

（東）［動］準備する，用意する．¶我们事先已作了充分～/私たちは事前にすでに十分な準備をした．

（白）［名］準備．¶渡河前，部队作了周密的～/川を渡る前に，部隊は周到な準備をした．

まずこれら２つは準述賓動詞“作”の目的語になっている例である。例えば(29)では，同じ“作准备”の“准备”が，（東）では動詞「準備する，用意する」の例として扱われ，（白）では名詞「準備」の例として扱われている。

(30)处分

（白）［動］処分する，罰する．¶最近他受到了～。/最近彼は処分された．

（講）［名］処分，処罰．¶受～/処分を受ける．

(31)刺激

（白）［動］②（人を）刺激する，元気づける，ショックを与える．¶他受了很大的～。/彼は大きな打撃を受けた．

（講）［名］刺激．¶他精神上受到了很大的～/彼は精神的に大きなショックを受けた．

---

[12]（　）内は元の記述を利用した辞書を表す。議論に関連する動詞の意味項目のみを抜粋して例示するので，当該の議論に関係のない意味項目や用例は引用していない。記号も本来の辞書ごとに異なっている場合があるが，本稿に引用した際には統一した。

これら２つは準述賓動詞“受”の目的語になっている例である。例えば(31)では，同じ“受刺激”の“刺激”が，（白）では動詞「刺激する，元気づける，ショックを与える」の用例として掲載されており，一方（講）では名詞「刺激」の用例として掲載されていて，品詞の不一致が生じてしまっている。

(32)体会
（白）［動］体験して会得する，体得する．¶你访问中国，到过很多地方，一定有不少～吧!/あなたは中国を訪問し，多くの土地に行っているので，さぞかし会得したことが多くおありでしょう！
（東）［名］経験，体験．¶参加这次活动，你有什么～?/今回の活動に参加して何か会得したことはありますか．

(33)研究
（白）［動］（事物の真理を）研究する．¶他对古文字很有～。/彼は古文字についてよく研究している．
（講）［名］研究．検討．¶他对生物学很有～/彼は生物学にとても造詣が深い．

これら２つは準述賓動詞“有”の目的語になっている例である。例えば(32)では，同じ“有体会”の“体会”が，（白）では動詞「体験して会得する，体得する」の用例として掲載されており，一方（東）では名詞「経験，体験」の用例として掲載されていて，やはり両者の間で品詞が一致していない。本稿の第１の基準を採用すれば，これらの例は動詞の中の名詞的な用法の例として，統一的な扱いを施すことが可能になる。

5.2.2. “的”を挟まずに直接他の名詞を修飾している場合

第２の基準は，“的”を挟まずに直接他の名詞を修飾しているものという基準である。次の例がそれに該当する。

(34)<u>研究</u>课题 / 研究課題．（白）
(35)<u>研究</u>项目 / 研究項目．（白）

これは朱德熙 1985a, 24 が，名詞の性質を兼ね備えた名動詞の特徴として挙げている点のうち

の一つである。この基準を採用することにより，次のような辞書間の不一致を解消することが可能になる。

(36)统计
（東）［動］②統計を取る．¶～学/統計学．¶这些～数字很说明问题 / 集計されたこれらの数字から問題点がよくわかる．
（講）［名］統計．¶～数字 / 統計数字．
（白）［名］統計．¶～学/統計学．

同じ“统计学”が，（東）では動詞「統計を取る」の用例とされている一方で，（白）では名詞「統計」の用例として扱われている。さらに同じ“统计数字”が，（東）では動詞の用例とされているのに，（講）では名詞の用例となっているのである。本稿の第２の基準を採用することにより，これらは一律動詞の中の名詞的用法の用例として扱うことが可能になる。

5.2.3. “的”を挟まずに直接他の名詞の修飾を受けている場合

第３の基準は，“的”を挟まずに直接他の名詞の修飾を受けるというものである。これも第２基準と同様，朱德熙 1985a, 24 が，名詞の性質を兼ね備えた名動詞の特徴として挙げている点である。次のような例が該当する。

(37)理论研究 / 理論研究．（白）
(38)科学研究 / 科学研究．（白）

この基準を採用することによって，次のような辞書間の不一致を解消することができる。

(39)研究
（白）［動］（事物の真理を）研究する．¶科学～/科学研究．
（講）［名］研究．検討．¶科学～/科学研究．

同じ“科学研究”が（白）では動詞「研究する」の用例，一方（講）では名詞「研究．検討」の用例として扱われている。本稿の第３の基準を採用すれば統一的な扱いができる。

5.2.4. 主語の位置に立っている場合

さて，朱德熙 1985a は取り上げていないが，本稿では第４の基準として，主語の位置に生起しているものという基準を提案したい。もちろん対象を１音節動詞にまで広げてしまうと，

(8) 他的笑是有原因的。(彼の笑いには原因がある。)（朱德熙 1985a, 16）

のような，中国語は動詞のままで広く主語の位置に立てるという現象と齟齬をきたしてしまうので，ここではあくまでも分析対象としている２音節動詞に限った基準と考える。意味的にも，主語は述語が陳述する対象（主題）であり，動詞が主語の位置にたったものは陳述される対象として指示されているものである。以下のような例がこの基準４に該当する。

(40) 这样做，影响很不好 / このようにすると悪影響が出る（東）
(41) 要求太高 / 要求が高すぎる．（講）
(42) 日以继夜的研究有了很大的进展 / 夜を日に継いで行なった研究は非常に大きな進展を見た．（白）
(43) 一个人的能力有大小，贡献也有大小 / 人間１人の能力には大小があり，貢献にも大小がある．（白）
(44) 革命时期情况的变化是很大的。 / 革命時期の情勢の変化は大きかった．（白）

この基準を採用することにより，次のような辞書間の品詞の不一致を解消することができる。

(45) 表演
（白）［動］（劇・歌・踊り・曲芸などを）演じる，上演する．¶他们的～引起了观众的共鸣/彼らの演技は観衆の共感を呼んだ．
（講）［名］演技．¶他的～很成功/彼の演技は非常に成功した．

(46) 演出
（白）［動］（芝居・舞踊・曲芸などを）公演する，上演する，演じる．¶这次～非常成功。/今回の公演は非常に成功した．
（講）［名］公演．上演．¶昨天的～很成功/きのうの公演は大成功だった．

例えば(45)で言えば，同じ“表演”が主語に立った例でも，（白）ではそれが動詞「演じる，

上演する」の用例とされており，（講）では名詞「演技」の用例となっている。このような主語の位置に立つ動詞を名詞的用法として典型的な動詞的用法と区別することは，(10)で示したように純粋な動詞が実際の用法の中で主語の位置に立つ例は実はきわめて頻度が低く，それを動詞の典型的な用法とみなし，そのように辞書に明示することは適当ではないという事実に基づいている。

5.3. 記述の具体的な例

さて，ここまでをまとめると，本稿は次の４つの文法的な枠組みを，動詞の中の名詞的な用法とする基準として提案する。

(47) 動詞の中の名詞的な用法とする基準
[基準１]準述賓動詞の目的語になっている場合
[基準２]“的”を挟まずに直接他の名詞を修飾している場合
[基準３]“的”を挟まずに直接他の名詞の修飾を受けている場合
[基準４] 主語の位置に立っている場合

２音節動詞の中の名詞との同型兼類語の用例配置は，まず典型的な動詞的用例をまとめて先に記載し，その次に本稿の４つの基準に該当する用例をまとめて，動詞の中の名詞的な用法を示すマークを付けて示すことにする。以下ではこの「動詞の中の名詞的な用法」を示すマークを仮に「➡」で表し[13]，実際の辞書での用例記述を本稿の基準に基づいて再整理するとどのようになるかについて，いくつかの語を例に用いて示す。

(48)【调查】diàochá 動 調査する．調べる．¶事情还没有～清楚/事はまだはっきり調べがついていない．➡¶社会～/社会調査．¶人口～/人口調査．（講）

“调查”は動詞と名詞の兼類の議論の際によく例として取り扱われる語である。[14]この例で

---

[13] このマークは「動詞の名詞的用法」に限らず，該当する品詞の中の非典型的用例を示すマークと一般化して他の品詞にも広げる可能性を含んでいる。例えば“院子”は「庭，中庭，敷地，屋敷」という意味の名詞であるが，“一院子人”（庭いっぱいの人）のような臨時量詞として用いられている例をもし掲載するとすれば，このマークの後にこのような本来の名詞の用法ではない用例を記述すればよい。

[14] 『商务馆学汉语词典』（鲁健骥、吕文华主编，商务印书馆，2006 年）が記述している“调查”の次のような意味項目を立項するとすれば，名詞として動詞とは別の品詞とすることになる。
（名）调查得到的结果和材料等：这是一份非常详细的调查｜这份调查先交给领导｜请在这份调查上签上你的名字

は，“事情还没有调查清楚”の“调查”は結果補語“清楚”を伴っているので典型的な動詞の用例として先に記載し，“社会调查”と“人口调查”については，本稿の基準３に相当するので，名詞的な用法の例としてまとめて後ろに回す。

(49)【分析】fēnxī 動 分析する．¶～问题/問題を分析する¶善于～形势/状況分析がうまい¶他们反映的情况，你要～～/君は彼らが報告した状況をちょっと分析してみるべきだ．➡¶他对国际形势的～很有说服力/彼の国際情勢に対する分析は説得力がある．(東)

この例では，まず“分析问题”“善于分析形势”が動詞“分析”が目的語を伴う例，“他们反映的情况，你要分析分析”が動詞の重ね形の例で，すべて動詞の典型的な用法の例としてまず先に挙げる。“他对国际形势的分析很有说服力”の“分析”は本稿の基準４に相当するため，名詞的な用法の例として後に回す。

(50)【贡献】gòngxiàn 動 貢献する．ささげる．役立てる．¶为伟大的事业，～一份力量。/偉大な事業のために，微力を尽くす．¶要把自己的一生～给社会主义建设。/自分の一生を社会主義建設にささげなければならない．¶～一生/一生をささげる．¶～青春/青春をささげる．¶有所～/幾らか貢献するところがある．➡¶对人类做出新的～。/人類に対して新しい寄与をする．¶他是对民主运动有过一些～的。/彼は民主運動にいささか尽力したことがある．¶一个人的能力有大小，～也有大小。/人間１人の能力には大小があり，貢献にも大小がある．(白)

この例では，“为伟大的事业，贡献一份力量”“贡献一生”“贡献青春”が動詞“贡献”が目的語を伴っている例，“要把自己的一生贡献给社会主义建设”が“把”構文の述語動詞になっている例，“有所贡献”も“有所”の後には動詞が立つので，これらをすべて動詞の用例として最初に掲載する。次に，“对人类做出新的贡献”“他是对民主运动有过一些贡献的”が本稿の基準１に，“一个人的能力有大小，贡献也有大小”が基準４に該当するので，名詞的な用法の例としてまとめて後に示す。

(51)【研究】yánjiū 動 ①（事物の真理を）研究する．¶我们～了几次那个问题。/我々は何度かその問題を研究した．¶这个现象前人已经～了几百年。/この現象については先人が既に何百年にわたって研究した．¶我们还是照常～下去吧。/我々はやはり平常どおり研究を続けていこう．¶我们～出一种新品种。/我々は新しい品種を（研究して作り出した→）開発した．¶认真～/真剣に研究する．➡¶日以继夜的～有了很大的进展。/夜を日に継いで行なった研究は非常に大

きな進展を見た．¶他对古文字很有～。/彼は古文字についてよく研究している．¶～课题/研究課題．¶～项目/研究項目．¶～工作/研究工作，研究活動．¶理论～/理論研究．¶科学～/科学研究．②（意見・問題などを）検討する，考慮する，調べる，考えてみる．¶这个问题党委正在～。/この問題は党委員会で検討中である．¶上级正在～我们的建议。/上級機関では我々の提案を検討中である．¶工资问题应该～～。/給与問題は検討してみなければならない．¶～的问题太多。/考慮する問題がとても多い．➡¶我们要对职工的业余学习进行～。/我々は従業員の余暇の学習に対して検討を行なう必要がある．（白）

“研究”は（白）では上記のように２つの意味項目を立てているが，そのそれぞれの用例について配置を整理する。意味項目①では，“我们研究了几次那个问题”“这个现象前人已经研究了几百年”が動詞“研究”が目的語を伴っている例，“我们还是照常研究下去吧”“我们研究出一种新品种”が補語を伴っている例，“认真研究”が連用修飾語の修飾を受けている例である。これらをまず典型的な動詞の用例として先に挙げる。次に“日以继夜的研究有了很大的进展”が本稿の基準４に，“他对古文字很有研究”が基準１に，“研究课题”“研究项目”“研究工作”が基準２に，“理论研究”“科学研究”が基準３に該当する。これらを名詞的用法の例としてまとめて後に記載する。意味項目②では，“这个问题党委正在研究”が連用修飾語の修飾を受けた例，“上级正在研究我们的建议”が目的語を伴った例，“工资问题应该研究研究”が動詞の重ね形の例，“研究的问题太多”が“的”構造の中に生起した例で，これらをまず典型的な動詞の用法の例として出す。次に“我们要对职工的业余学习进行研究”は本稿の基準１に該当するので，名詞的な用法の例として最後に掲載する。

5.4. 名詞を乱立させることの問題点

さて，動詞と名詞の境界線上で問題となる２音節動詞については，本稿の４つの基準に該当する場合，その日本語訳が名詞的な訳語になることが多く，名詞を立項したほうが日本人の語感と合致する印象を与えるためか，名詞を立てているものも決して少なくない。　ただ，これは日本語の訳語の影響だけによるものではないようで，中国の辞書でも，次のように動詞と名詞の同型兼類語について名詞を立項しているものがある。

(52)【学习】xuéxí 動 从阅读、听讲、研究、实践中获得知识或技能：（中略）名 指学习的活动：¶政治学习¶文化学习¶业务学习¶他的学习很好。(『汉语 8000 词词典』北京语言文化大学出版社，2000 年)

本稿の提案から見れば，名詞の例として挙がっているもののうち，“政治学习”“文化学习”“业务学习”の３つは基準３に該当するし，“他的学习很好”は基準４に該当するので，品詞は動詞のままでそのような用例をまとめて提示すればよいわけである。

なぜこのように名詞を立項する傾向があるのかという理由は本稿では紙幅の関係でここでは議論しない。ただ，本稿のような（その妥当性はもちろん大いに議論すればよいとして）形式上明確な基準を設定し，その基準に基づいて用例の振り分けを行なうのに対して，いわば主観的に名詞を多く立項していくと，辞書記述の上でどのような結果がもたらされるかということだけは確認しておきたい。

(53)は，名詞が立項され得る語について，制限なく名詞を立項していくとどのようになるかを，ごく一部の語を選び例示したものである。ここではまず初版の『中日辞典』[15]から，訳語が「～（する）」となっている語をアトランダムに数例選び，それらについて動詞と名詞の両者を立項し，それぞれに該当すると考えられる訳語を付した。

(53)

【毕业】bìyè 動 卒業する． 名 卒業．

【学习】xuéxí 動 学習する；勉強する． 名 学習；勉強．

【复习】fùxí 動 復習する． 名 復習．

【预习】yùxí 動 予習する． 名 予習．

【结婚】jiéhūn 動 結婚する． 名 結婚．

【离婚】líhūn 動 離婚する． 名 離婚．

【再婚】zàihūn 動 再婚する． 名 再婚．

【供给】gōngjǐ 動 供給する；提供する． 名 供給；提供．

【后悔】hòuhuǐ 動 後悔する． 名 後悔．

【抽签】chōuqiān 動 くじ引きをする． 名 くじ引き．

【参考】cānkǎo 動 参考にする． 名 参考．

【补充】bǔchōng 動 補充する；補足する． 名 補充；補足．

【放任】fàngrèn 動 放任する． 名 放任．

【放散】fàngsàn 動 発散する． 名 発散．

【放射】fàngshè 動 放射する． 名 放射．

【分布】fēnbù 動 分布する． 名 分布．

---

15 『中日辞典』，北京商務印書館・小学館共同編集，小学館，初版，1992 年。

【分工】fēngōng 動 分業する;分担する. 名 分業;分担.
【分离】fēnlí 動 分離する. 名 分離.
【服从】fúcóng 動 服従する. 名 服従.
【腐烂】fǔlàn 動 腐乱する. 名 腐乱.
【腐蚀】fǔshí 動 ①腐食する. ②堕落する;悪影響を与える. 名 ①腐食. ②堕落; 悪影響.
【复仇】fùchóu 動 復讐する. 名 復讐.
【复古】fùgǔ 動 復古する. 名 復古.
【告发】gàofā 動 (公安機関・裁判所などに)告発する;摘発する. 名 告発;摘発.
【割让】gēràng 動 (領土を)割譲する. 名 割譲.
【革新】géxīn 動 革新する. 名 革新.
【隔绝】géjué 動 隔絶する;断絶する. 名 隔絶;断絶.
【观赏】guānshǎng 動 観賞する. 名 観賞.
【贯彻】guànchè 動 貫徹する. 名 貫徹.
【合唱】héchàng 動 合唱する. 名 合唱.

このように名詞が立ち得るものについて積極的に名詞を立項していく場合，そもそもどこまで名詞を立項するのかという範囲を設定する際の基準を定めなければならない。例えば(52)のように「学習する」“学习”に「学習」という名詞を立てるのなら，「予習する」“预习”には「予習」という名詞を立てるのか，「復習する」“复习”にも「復習」という名詞を立てるのかということが問題となる。「結婚する」“结婚”に「結婚」という名詞を立てるのなら，「離婚する」“离婚”にも「離婚」という名詞が必要なのか，「再婚する」“再婚”にも「再婚」という名詞を立てるのかなど，範囲が際限なく広がってしまう可能性があるのである。

範囲を定めにくいという問題だけでなく，このように名詞を立項していくと，２音節動詞のかなりのものに動詞と名詞が並立され，辞書の中が名詞だらけになってしまうという量的な問題も存在するということは，(53)のサンプルを見れば簡単に予想される。どの程度の割合の動詞に名詞がつき得るかという点についても，先行研究の指摘する数値からおおよその予測が可能である。数値について言及している先行研究の該当部分を以下に挙げる（下線は筆者）。

(54)比如“研究、检查”等具有动词和名词性质的词占常用动词的 44%。（郭锐 1999）

(55)“研究”这些词要占动词总数的 31%，显然不宜处理为兼类。（陆俭明 1999）

(56)统计显示，具有名词性的动词在 10300 个动词中共有 2381 个，占 23%，比例相当大(约四分之一)，在词频最高的前 3925 个词中有 1220 个，占 31%，(後略)（郭锐 2002）

常用語をどの範囲までに設定するかによっても数値に若干幅は出るが，名詞を主観的に立項していくと，動詞の中のおよそ 30%程度に名詞が付されることになってしまう。このような事態は，品詞の分類のしかたからいっても妥当でないし，(47)で提起した４つの基準の位置に動詞がそのままで生起しうるという中国語本来の姿からも逸脱しており，問題点が多いと言わざるを得ない。

６．おわりに——今後の課題

本稿では，動詞と名詞の間の兼類語としてしばしば扱われる２音節動詞について，日本人学習者向けの辞書でどのように記述すべきかを述べた。動作行為の参与者の場合は名詞を立項するものの，動作行為自体を指示する「同型兼類語」については名詞を立てず，あくまでも動詞の中で処理すること，ただし動詞的な用例と名詞的な用例を混在させるのではなく，動詞としての典型的な用例をまず提示し，その後に動詞としては非典型的な名詞的用例をまとめ，それが動詞の中の名詞的な用例であることを明示することを主張し，さらにその名詞的な用例と認定する際の具体的な基準を提案した。

さて，本稿でのこれまでの議論に取り入れていなかった重要な論点に，語の使用頻度の問題がある。学習者向けの辞書においては，その語や用例の実際の使用頻度も記述の上で考慮にいれなければならない重要な要素である。用例提示においても，使用頻度の高い例は積極的に提示すべきで，逆に文法的には間違っていないものの現実にはほとんど使用されないといった使用頻度の低い用例があれば，優先順位からすれば用例として掲載しないという可能性が高くなる。

先行研究にもこの使用頻度と用例の関係に言及しているものがある。程荣 1999 は

(57)【补助】bǔzhù 从经济上帮助（多指组织上对个人）：～费｜实物～（《现代汉语词典修订本》）

の例を挙げ，“补助费｜实物补助”という用例は動詞の典型的な用例ではないものの，常用される例であり，特に“补助费”は実際の言語では使用頻度が非常に高く，主要な用例として挙げざるをえないとしている。[16]また，黎良军 2006 は，

[16] ちなみにこの２つの用例は，程荣 1999 で引用された『现代汉语词典修订本』の次版である『现代汉语词典 2002 年增补本』までは掲載されているが，最新版である『现代汉语词典第 5 版』では他の用例に替えられ削除されている。

(58)【白茬】báichá②（木制器物）未经油漆的：～大门｜桌椅还是～，得请人油一油（《现代汉语词典 2002 年增补本》）

の例を挙げ，『現代汉语词典』の第５版では下線の用例が削除されたことを指摘した上で，これは常用される例なので提示したほうがよいと主張している。[17]

本稿ではこのような使用頻度の要素まで考察に取り入れることができなかった。今後の課題として取り組んでいきたい。

＜文献目録＞

程荣 1999「汉语辞书中词性标注引发的相关问题」，『中国语文』第 3 期。
刁晏斌 2004『现代汉语虚义动词研究』辽宁师范大学出版社。
郭锐 1999「语文词典的词性标注问题」，『中国语文』第 2 期。
——2002『现代汉语词类研究』商务印书馆。
黎良军 2006「汉语词典词性标注的基本经验」，『辞书研究』第 2 辑。
李尔钢 2006「兼类词的义项设置和词性标注问题」，『辞书研究』第 3 辑。
林立 1982「名词动词兼类和词典标注词性问题」，『辞书研究』第 1 期。
陆俭明 1993『八十年代中国语法研究』商务印书馆。
———1999「关于汉语词类的划分」，马庆株编『语法研究入门』商务印书馆。
莫彭龄、单青 1985「三大类实词句法功能的统计分析」，『南京师大学报』第 3 期。
沈家煊 1999『不对称和标记论』江西教育出版社。
苏宝荣 2002「汉语语文辞书的词性标注及其对释义的影响」，『辞书研究』第 2 辑。
徐枢、谭景春 2006「关于《现代汉语词典(第 5 版)》词类标注的说明」，『中国语文』第 1 期。
张拱贵 1983「词类和句子成分的关系及有关词类的几个问题」，『南京大学学报』第 4 期。
朱德熙 1982『语法讲义』商务印书馆。
———1985a『语法答问』商务印书馆。(中川正之・木村英樹編訳 1986『文法のはなし—朱德熙教授の文法問答—』光生館。)
———1985b「现代书面汉语里的虚化动词和名动词——为第一届国际汉语教学讨论会作」，『北京大学学报』第 5 期。(朱德熙 1990『语法丛稿』上海教育出版社。)
邹韶华 2001「词类划分与词性标注」，『语用频率效应研究』商务印书馆。
影山太郎 1999「日英語の名詞化と有界性」，『人文論究』第 49 巻第 2 号。
三宅登之 2003a「兼類について」，『中国語』第 522 号。
————2003b「動詞と名詞の境目」，『中国語』第 523 号。
————2005a「動詞と名詞の区分をめぐって——品詞表示の比較のモデルケースとして」，山崎直樹・遠藤雅裕編 2005『辞書のチカラ　中国語紙辞書電子辞書の現在』，好文出版。
————2005b「ついに品詞をつけた『現代漢語詞典』」，『東方』第 297 号。
(http://www.toho-shoten.co.jp/toho/toho297-4.pdf)
中川正之 2002「中国語の動詞をどう捉えるか」，『言語』11 月号。
大堀寿夫 2002『認知言語学』東京大学出版会。
山崎直樹 2005「入門者向け学習辞典における例文の選択——文型を理解させるための例文という観点から」，山崎直樹・遠藤雅裕編 2005。

[17] 『现代汉语词典第 5 版』では“白茬”は形容詞（属性詞）になっている。

语文词典上动、名兼类词的词性标注与配例（提要）

三宅 登之

本文从动词和名词的语法特征入手，讨论汉语语文词典上词性标注和配例的问题。

众所周知，汉语里有不少双音节动词和名词的兼类词，如“调查、研究、分析、影响、准备、保证、安排、表演、刺激、工作、出版”等。我们调查了在日本发行的几种主要的《中日词典》对这些词的词性标注的情况，发现有的词典只标动词，有的词典除了动词以外还标名词，情况不一。关于什么时候标名词，我们几乎没看出每个词典上是否有自己的标准。

我们认为语文词典上标注词性的时候应该有标准，就动、名兼类词来说，不能主观地随意决定是否标名词。我们主张，标注词性时根据朱德熙 1982 的“名动词”的观点，先把这种词都看做动词，基本上不标名词。但举例时应同时注意配例与词性的协调。像“调查、研究”这样的名动词，除了作为动词的很典型的例子（如带宾语、补语、“了”、“着”等）以外，体现其名词性的例子确实是存在的。我们提出四种体现名词性例子的语法框架：

（一） 做准谓宾动词的宾语，如：“做准备”、“进行分析”等。

（二） 直接修饰名词，如：“研究课题”、“统计数字”等。

（三） 受其他名词直接修饰，如：“理论研究”、“农村调查”等。

（四） 做主语，如：“这样做，影响很不好”、“日以继夜的研究有了很大的进展” 等。

我们建议，编写语文词典时对名动词应该根据这个语法框架严格区分体现动词性的例子和体现名词性的例子，举例时先举典型的体现动词性的例子，然后举一些体现名词性的例子。这两种性质不同的例子翻译成日语之后译文会不一样，所以区分这两种例子对学习汉语的日本学习者来说肯定有好处。

本文最后还对几个名动词按照我们提出的词性标注与配例方式做了示范性的词性标注和示例。